

羅針盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況の状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価	
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部7ヶ所等				総合
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 豊かな人間性、想像力を育成する教育活動を行っていますか。	①自ら積極的にあいさつをしていると自己評価している生徒が90%以上である。	①大きな声であいさつできない生徒が増えている現状を踏まえ、教師から声を出しているとの積極的なあいさつに心がけ、継続的なあいさつ運動を展開し、家庭・地域でも同様に元気なあいさつができるようにする。	B	A/A	A	生徒会や生活委員会が中心となり活動している朝の挨拶運動、職員が積極的にあいさつをするようにすることで、元気にあいさつできる生徒が多い。学年が上がるにつれて、あいさつをする生徒とそうでない生徒の差が見られる。今後は、誰もが自然にあいさつできる雰囲気づくりを進めていきたい。	6年間の指導が積み上げられるのが中央中等のよさ。生徒と教員間に信頼関係が生まれる。その中で、あいさつや生活環境を綺麗に掃除するといった意識をもたせたい。	
		②意欲的に清掃活動に取り組んでいると自己評価している生徒が85%以上である。	②教師が共に清掃に取り組みながら、生徒の美化意識を育む指導を行い、汚れているところを率先してきれいにする行動を校外、特に家庭や地域でも実践できるようにする。	C	B/B	B	前年度の課題であった清掃用具の不足を解消するために、定期的に点検を行い、清掃活動が円滑に行われるようになった。また、清掃活動への意欲を高めるために、環境委員を中心として清掃状況のチェックを取り入れた。次年度は清掃状況チェックを継続するとともに、清掃活動の手順や時間配分などマニュアルを全校に周知し校内美化に努めたい。		
		③自分の学校が好きだと感じている生徒が85%以上である。	③良好な学習環境を整備し、教師、クラスメート、先輩・後輩等との安定した人間関係を構築する。	A	A/A	A	日常的なコミュニケーションを通して安心して関わられる環境づくりを進め、生徒同士および教師との信頼関係の構築を図ってきた。また、学校行事では学年を超えた交流を行い、先輩・後輩の関係を深め、支え合う人間関係の形成につなげてきた。生徒の主体的な活動を一層促進するため、活動時間の確保と活用の工夫が今後の課題である。		
	2 国際的なコミュニケーション能力を育成する教育活動を行っていますか。	④英語や外国文化に興味を持っている生徒が90%以上である。	④英語に関する各科目の授業を英語で行うだけでなく、英語を用いる機会や場面を多く設ける。	A	A/A	A	各習得段階において、指導場面に応じた多様で適切な教材を使用しつつ、スピーチやプレゼンテーション、ディスカッション、ディベート、英語ニュースを聞いたり英字新聞を読んだりしたあと感想を伝え合うといった活動等を通して、英語・外国文化・世界情勢について、興味関心が深まっている。真の意味での国際コミュニケーション能力の育成に向けて、実際の場面で即興的かつ創造的に表現出来る能力、グローバルスタンダードにかなう論理構成力、プレゼン能力、意思伝達力等の育成に、前期・後期通して一貫して取り組んでいく。各発達段階ごとの具体的な目標や指導方法を検討していく。		今日のFEWCの発表を見ていると人前で発表にも慣れていて、学年が上がるに連れてレベルアップしている様子が見て取れた。FEWCなので講師を呼んでいるが、世界で活躍する研究者から英語で話を聞くなどの機会を入れてもよいと思う。
		⑤イングリッシュデーやスピーチコンテストなどの英語科行事や、海外修学旅行に満足している生徒が85%以上である。	⑤コロナ禍前の形に戻すことを原則とし、そこにコロナ禍で手に入れた工夫を加えて各種行事を実施し、参加生徒の意欲や関心をより一層高める。	A	B/B	B	前期・後期を通じ英語関連の行事と関連づけた授業を通して、4技能に加えて発表能力を向上させる活動をより多く行い、自らの考えを伝え合う力を養いつつ、各行事に対する意欲が高まってきている。来年度はイングリッシュデーをより充実させるよう内容検討を進めている。各行事の振り返りを当該学年だけでなく科として検討し前期・後期通して一貫して活動として改善・継続することが重要である。		
		⑥全ての生徒が、学校行事や授業等で我が国や世界の国々の文化・伝統に触れる経験をしている。	⑥学校行事、各教科等で、我が国や世界の国々の文化や伝統に対する理解を深める学習を行う。	A	A/A	A	FEWCの学びを中心に前期から6年間を見据えて計画的に、各教科、科目の授業、行事等で日本及び世界の文化・伝統に触れる学習を行っている。9月に行われているグローバル・ウィーク、3年を1クールとして群舞、演劇、日本古来芸能といった内容を立案している芸術鑑賞教室等も、生徒の国際的な視野を身に付けるために効果的であるが、1年生から6年生の発達段階の違いを考えると、その内容や活動に更なる工夫が必要である。		
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	4 基礎・基本の確実な理解を図る指導を徹底していますか。	⑦授業内容を理解できていると感じている生徒が80%以上である。	⑦テストの結果分析のみならず、振り返りシート等のアイテムを活用し、生徒の理解度を計り、理解度に応じた指導を行う。	A	A/A	A	協働学習とコロナ禍に取り入れられたICTを用いた授業が定着し、授業研究・FEWC推進部主導で行われている職員研修と公開研究授業、授業研究会等によって、全ての職員の授業スキルが向上していることは間違いない。結果として、生徒一人一人授業に対する理解度、基礎基本の力を把握し、それに合わせた授業改善も進んでいる。今後は中間考査を廃止したことによる生徒の変化や個別最適化学習の実践等に着目して、本校の目指す生徒像の育成に向けて、生徒、教師が生き生きと取り組める授業を目指していきたい。	進学実績も難関大学に合格する生徒が増えており、よい授業をしているのと思う。引き続き、個々の課題に応じた細やかな指導をお願いしたい。	
		⑧少人数指導に満足している生徒が85%以上である。	⑧30人学級に加えて、英語や数学で少人数指導を行い、個に応じた指導を行う。	A	A/A	A	少人数授業の形態化を防止し、少人数指導の長所をより伸ばすために、少人数指導でしかできない取組について見直しを行った。授業の形態に工夫を加えることで、生徒の充実感を高め、個別最適化学習の実践、課題発見、課題解決能力の伸長を心がけた。		
		⑨学習動機が明確な生徒が85%以上である。	⑨前期課程では個に応じた学習指導を、後期課程では個に応じた進路指導を、それぞれ充実させ生徒の進路目標を明確化させる。	C	B/A	B	二者面談、三者面談を通じて、生徒一人ひとりに対して適切な助言をすることができた。学年毎に、今何をすべきかを改めて考えさせる工夫をしていきたい。		
	5 生徒の学習意欲を喚起する指導が充実していますか。	⑩家庭学習の習慣が身に付いている生徒が80%以上である。	⑩学習時間調査、二者面談等の結果分析を有効活用し、指導に役立てる。	B	C/A	B	将来の自分、卒業後の自分を想像し、今それをやるのがなぜ必要なのかを意識させるとともに、個別最適化学習の実現を図りたい。	大学も全入時代に入っており、学習意欲がもたずに時間がかり過ぎていく生徒もいるかと思う。学習習慣の確立を前期のうちからお願いしたい。	
		⑪すべての教師が、「探究的で創造的な学習」、「指導と評価の一体化」、「ICTの活用」等のテーマを設定し、授業改善に取り組んでいる。	⑪「新しい学び」という年度当初に授業改善に係る研究テーマを設定し、研究テーマに沿った全体研修を年2回以上実施する。本年度は「個別最適化学習」を取りあげる。	A	A/A	A	昨年度に続き「学習の個性化を伴った探究的で創造的な学習の導入」をテーマとし、計3回の公開研究授業研修を実施（計14名の教員の研究授業を公開）した。さらに12月に実施した第2回FEWC職員研修では「生成AIを活用した個別最適学習支援」というテーマでの講義を実施した。また、先進校視察研修（新渡戸文化中学校・成蹊中学・高校を研究部職員4名で訪問）を行い、PBLや教科横断学習の実践について有意義な学びを得た。		
		⑫すべての教師が授業研究・FEWC推進部の計画に沿って研究授業を行い、授業参観を年2回以上実施している。	⑫授業改善の一環として研究授業・授業参観、公開授業等を行い、外部の専門家による指導を受けつつ、充実をはかる。	A	A/A	A	計3回の公開研究授業及び授業研究会を実施することにより「学習の個性化を伴った探究的で創造的な学習の導入」について、教員同士の学び合いによる充実した研修会を行うことができた。来年度はテーマにAI活用の要素を加えるとともに、引き続き研修テーマに関する情報提供と教職員の話し合いによる学びを活性化させ、教職員が研修テーマに沿って各自の授業を日々改善できるよう支援していきたい。		
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	7 生徒が良好な人間関係を築けるよう組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑬教師との信頼関係を築けていると感じている生徒が80%以上である。	⑬教師からの声掛けや面談により、生徒と触れ合う機会を多く持つ。	A	A/A	A	個人面談やアンケート、日頃の生活を通して得た生徒に関する情報を全職員で共有し、それぞれの生徒に対して適切なタイミングで支援・指導を行っている。組織的な対応をより円滑に進めるため、日頃から職員間の風通しを良くすることを心がけた。	中央中等は6年間生活をともにすることで、他の学校にはない生徒間のつながりが築けると思う。そのつながりが将来、公私にわたって恩恵を得られることになると思うので、人間関係づくりを大切にしたい。	
		⑭クラスの人間関係が良好だと感じている生徒が80%以上である。	⑭日頃からクラス内で協働する機会を増し、お互いを思いやれる関係を作る。	A	A/A	A	行事や日常の学校生活の中で、互いに助け合えるような声かけに努めている。また、多様な価値観の存在や他者を認めることの重要性について、継続的に指導している。今後はトラブルの未然防止を図り、SHRや学年集会以外の説諭指導等を通して、先手を打った生徒指導を心がけている。		
		⑮自分の健康について意識している生徒が80%以上である。	⑮「保健だより」や保健委員会活動による啓発活動を活性化し、SCによる相談活動をタイムリーに活用し、心の健康についても十分に配慮する。	A	A/A	A	コロナ対策で行っていた手指消毒の習慣化や、自ら判断してマスクの着用を行うなど、感染症対策を意識している生徒が多い。感染症以外の健康管理についても、学校保健委員会が調査・研究を行い、取り組んだ内容についてクラスルームや保健だより等で生徒に伝えていきたい。		
	8 生徒は健康で健康的な学校生活を送っていますか。	⑯部活動や委員会活動に取り組んでいる生徒が75%以上である。	⑯部活動支援を充実させたり、ボランティア活動の紹介・啓発を行う。	A	A/A	A	生徒の自主的、自発的な参加により行われる活動に75%以上の生徒が参加していることは、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成につながるものと考え、今後は学習指導要領の示すとおり、地域社会との連携をいかに効率よく進めていくかが、持続可能な部活動運営上の課題となるであろう。		薬物に気軽に手を出してしまう中高生が増加しているという声も聞いている。オーバードーズなどの単独はおしやれに感じるが、人生を破壊に向かわせる。薬物乱用防止教室などをやっているという聞いたが、場合によっては、知らずにいた子供たち逆に興味を与えてしまうような場合もあるかと思う。心身共に健全な生徒の育成をお願いしたい。
		⑰いじめの発生防止に努め、いじめの解消率が100%である。	⑰定期的実施するいじめアンケート、教員にSCを加えた定期的な会議内容、関係職員による生徒観察、面談、保護者からの情報等により、いじめの実態を迅速かつ正確に把握し、いじめ対策委員会を中心に、被害生徒・加害生徒の関係改善のために尽力し、いじめを解消する。	A	A/A	A	いじめの定義やいじめ防止対策推進法、国の基本方針等について周知徹底を図り、いじめの未然防止・早期発見・早期対応の重要性を共有した上で、職員が抱え込むことのない組織的な対応を行うことができた。今後も引き続き生徒に関する情報共有を徹底し、迅速かつ的確に対応できる体制の充実を図っていく。		
		⑱＜前期課程＞自分の特性と将来の職業とについて関連付けている生徒が70%以上である。	⑱＜前期課程＞心理テスト等で自己理解を促すとともに、学級活動で進路意識向上を図る指導を行う。	B	A/A	A	進路講演会を実施し、生徒自身に自分の進路を考える機会を提供した。キャリア教育については、今後も特別活動部による年間計画およびFEWCにビルト・インする形で実施していきたい。		
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	9 各学年の特性に応じた計画的な進路指導を行っていますか。	⑲＜後期課程＞自分の特性と将来の職業とについて関連付けている生徒が80%以上である。	⑲＜後期課程＞積極的にデータを活用した進路指導を実践する。	A	A/A	A	文理選択、科目選択、志望校選択等の場面における個別指導を充実させた。今後は、本校にとって望ましい高大連携のあり方を模索したい。	将来に向けて漠然とした気持ちで大学進学をするのではなく、明確な希望をもって将来と結びつけて進路を開拓していくような力をもつ指導が大切。	
		⑲＜後期課程のみ＞進学意思が明確な生徒が90%以上である。	⑲＜後期課程＞二者面談や個別指導を充実させ、生徒への支援を充実させる。	A	A/A	A	三者面談にあたって、適性検査等のデータを活用した。今後は、さまざまな機会を捉えて、親子間で意見交換をするように工夫していきたい。		
		⑳子どもの進路希望を理解している保護者が85%以上である。	⑳子どもとの進路希望を理解している保護者が85%以上である。	B	B/A	B	学年毎に進路講演会を実施し、本校生徒・保護者に対して必要な進路情報を発信している。また、進路関連雑誌等を学年に合わせて、必要な時期に配布している。さまざまな情報誌の中から、よりよいものを求めて精選していく。		
	10 生徒が将来の進路を選択するのに役立つ適切な情報や場を提供していますか。	㉑学校からの進路情報提供に満足している生徒・保護者が80%以上である。	㉑「進路だより」や「学年通信」、講演会等を通して積極的に情報を発信する。	A	B/A	A	生徒の発達段階にあわせ、各学年のニーズに応じた行事を行った。後期生に対しては、難関大セミナーを紹介するなど、各学年の進路環境に応じた最新の情報を、引き続き提供していく。		大学受験情報は複雑化している。進路講演会など、保護者向けの説明は充実しているが、保護者は変化についていけない人も多いかと思う。わかりやすい丁寧な説明が必要。
		㉒進路講演会や進路関連行事を各学年、年2回以上開催する。	㉒コロナ禍前の形に戻すことを原則とし、より生徒や保護者の求めに対応した行事として、特に企業人講師とのふれあいやインターンシップ等の体験的な学習の実施に力を注ぐ。	A	A/A	A	DX（デジタルトランスフォーメーション）推進の方針に合わせて、Webページの見直しを行い、保健だよりや図書だより、学年通信等をWebページ上に掲載したり、「れんらくアプリ」を使っての配信、フォームを使用している出席確認を実施する等、情報の正確かつ速やかな提供、回収を行った。B4版の用紙を廃止する等ペーパーレス化も推進し、Webページの更新もタイムリーに実施した。保護者等の評価では、更なるWebページの更新を求める意見もあるの、更新の頻度については慎重に検討していきたい。		
		㉓学校説明会や公開授業、授業参観をそれぞれ年1回以上実施する。	㉓学校の最新情報を必要に応じてタイムリーに掲載し、更新回数も増やす。	A	A/A	A	6月と11月に決められた3日間、自由に参観できる「授業参観週間」を今年も実施し、保護者からも好評なこの形が定着した。学校説明会は今年も申込み制で実施し、10月の6年生を対象としたオープンスクールは定員に満たなかった分を、4、5年生を抽選で募集した。また、8月と11月には、小学4、5年生対象のプレオープンクラスを実施した駐車スペースが確保できないので、今後はこの形での実施が妥当と思われる。次年度以降も小学5年生以下を対象とした授業公開等を検討し、開かれた学校づくりをさらに進めていきたい。		
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	11 積極的な情報発信に努めていますか。	㉔Webページの必要箇所を月3回以上更新する。	㉔学校の最新情報を必要に応じてタイムリーに掲載し、更新回数も増やす。	A	A/A	A	紙の配布物より、連絡アプリでPDF・Google Drive/Formsを利用してなるべく直接保護者に連絡ができるように続けた。	県立学校となると、小中学校とは違って保護者が地域にいないため、地域とのつながりは少ない。ただ、通学路も含め地域と共有する部分は多いため、地域の方に本校の姿を正しく知ってもらう場は必要。	
		㉕学校説明会や公開授業、授業参観をそれぞれ年1回以上実施する。	㉕コロナ禍前の形を原則として、密を避ける工夫も継続しながら対面での実施を計画し、それを補助するものとしてリモート等も併用することで実施効果を高める。	A	A/A	A	「れんらくアプリ」等による出欠確認やメール配信、PTA・学年行事や学年通信による情報発信、三者面談による情報共有等を積極的に図る。		
		㉖学校は、生徒・保護者による地域貢献活動を年1回以上行っている。	㉖生徒とPTAによる地域美化活動を実施する。	A	B/B	B	PTA学校周辺美化活動で多くの保護者・在校生が参加できた。引き続きこの行事は秋で実施することを検討したい。		
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	13 ICTを活用した授業等を実践していますか。	㉗生徒用端末を活用した授業が全ての教科で行われている。	㉗全ての学年、教科でクラスルームを作成し、生徒用端末を積極的に使った授業を実践する。	A	A/A	A	公開研究授業や職員研修の取り組みなどを通じ、ICTを用いた学習の個性化を伴った創造的で探究的な授業を試行錯誤しながら模索する教職員の姿が定着してきた。来年度もこの方向性での努力を継続するとともに、指導の個別最適化のためのAIの活用方法についても研究し、教職員を支援していきたい。	ICTがすべて正しいわけではないと思うが、効率的な使うことで生徒の学びが深まると思う。	
		㉘ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉘meetやメール、フォーム等の機能を利用し、ペーパーレスを心がけ、効率的な業務遂行をはかる。	A	A/A	A	ICT機器を利用して欠席連絡や連絡ツールとして活用している。また、職員の掲示板に続き生徒管理システムを統一システムに移行することで業務の効率化と持続性を高めることができた。今後は、生徒管理システムの運用をよりスムーズに行えるように支援したい。		
		14 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉙体験的要素を取り入れた内容とし、指導効果を高める。	A	A/A	A	日頃から、与えられたかけがえのない命について考え、自他ともに命を守る意識を育てる指導を行ってきた。また、本校生徒の現状を踏まえ、交通ルールやマナーについての指導を通して、交通事故の未然防止に取り組んできた。今後は、ヘルメット着用や定着に向けて、引き続き声かけを行っていく。		
VII 生徒の安全確保を図っていますか。	15 生徒の安全に対する意識喚起に努めていますか。	㉚交通安全教室を年1回、防災訓練を年2回実施する。	㉚体験的要素を取り入れた内容とし、指導効果を高める。	A	A/A	A	日頃から、与えられたかけがえのない命について考え、自他ともに命を守る意識を育てる指導を行ってきた。また、本校生徒の現状を踏まえ、交通ルールやマナーについての指導を通して、交通事故の未然防止に取り組んできた。今後は、ヘルメット着用や定着に向けて、引き続き声かけを行っていく。	自転車事故の多さは懸念している。とにかく気を付けろというだけでは思うが、繰り返し安全運転の指導をお願いしたい。	
		16 施設・設備の安全管理を徹底していますか。	㉛安全点検結果を検証し、危険箇所の迅速な改善に努める。	A	A/B	A	定期的な安全点検を行うことができた。点検によって不備があった場合には、各部署との連携により速やかな対応ができるよう務めたい。		